

◆(仮称)磐田市協働のまちづくり基本条例解説書案(案)アンケート意見等

- 読みやすかった。単語が平易であり、たやすく理解できる。具体的な取組みに期待。
- 内容は理解できる。ただ、市民に理解、徹底させるのは相当苦勞がいると思う。
- 解説書なので、厚くなるのは仕方ないところだが…。
- 解説書は規定に対して解説されているが、理解するためには勉強会等を行ってほしい。
- 自治会に携わっていても現在の条例の存在を知らなかった。条例改正の背景は実感している。変化に対応しきれないのは地域だけでなく行政も同様だと思う。
- 今後高齢者が増え、互いに住み慣れた地域で助け合い、生活していく時代になるので、今までと違う新しい形の「助け合いの地域づくり」が必要となってくると思う。
- 地域づくり協議会と自治会の関係が明記されていて、実態を合わせていく必要があると思う。
- 条例自体が一般的でないため、理解するには時間が必要だと感じる。条例の内容も専門的なので受け入れられにくいと思う。
- 条例に書かれている内容は理想であり、実際の自治会や地域づくり協議会と大きな乖離があると思う。それを実現するためのヒントとなるような取組み事例を示して行ってほしい。
- 少子高齢化の中、自治会活動や地域づくり協議会活動における「人材確保・育成」は、今後活動を継続していく上で重要な課題と考える。
- 大変細かく丁寧に説明されていて、理解しやすくよく出来ていると思う。
- 文のみでは頭に入りずらく、図案化できるものは解説に取り入れるよう願う。
- 地域の産業(農業・商業)と連携した地域づくりが解説から見えない。地域の産業を活かしたまちづくりは地域づくりに欠かせないと思う。
- 「類似事業の整理」、「携わる人の負担軽減」等と条例改正の背景で述べられているが、どう改正されたのか明記をしてほしい。
- 「防災、災害時の対応」に関する条文があった方が良いと思う。
- 地域づくり協議会を中心としたまちづくりと自治会の課題・役割との連携は難しいのではと思う。
- 当たり前のことが書かれていると感じた。
- この解説書案の文言は条例に準ずると捉えていいかどうか。協働のイメージ図がわかりにくく、図示する意味があるのかを考えてほしい。
- 市民との共益部分について書かれていると思うが、少子化と高齢化の問題についての市の方針が今一つわからない。協働のイメージ図に、どの地区にも存在しているわけではない「子ども会」や「シニアクラブ」が入っていて、「地区社協」や「PTA」が入っていないこともあるので、どの地区もイメージできる図の方がいいと思う。
- 人口減少や高齢化が進み、一人暮らしの高齢者をどうするかという問題、サロンに参加する人数が少なく、どうすれば増やせるか課題は多い。
- 基本条例の方向性が何に基づいているのかわかりにくい。第10条(3)に情報交換だけでなく、情報発信の仕組みを加えるべきだと思う。特に人材育成の観点から、大学を含めた学校との連携を入れたらどうか。若い時から地域活動に参加、経験することは大切だと考える。
- 市民とは外国籍の方も含まれると思うが、例えば、ある地区で日本人より多くの外国籍居住者がある場合、これまでの地域の風習・伝統が無くなったり、隣接する自治会との付き合いも連携できるのか疑問に思う。どのようにすれば参加率や関心を上げるか施策を示してほしい。

- 解説書で紹介する事例は実際に結果を出し、効果のあったものにした方がいいと思う。
- 地域づくり協議会が設立され何年か経過し、様々な課題が出てきている中で、この条例が出されることに、どういう意味があるのか、変わることができるのか、大変興味を持った。
- (仮称)協働のまちづくり基本条例は最も重要な条例だと思う。現条例の改正と単純に決めつけるのではなく、磐田市の住民自治についての現状を分析し、今後の本市のためにどのような内容の条例が必要か、どんな体系にする必要があるか大局的に議論し、必要性も含めてじっくりと検討を行ってほしい。
- 現条例と基本条例案の違いや現条例の評価、条例の必要性や目的、位置づけ、あり方等基本的な考え方を明確にしてほしい。
- 「自治基本条例は自治体の自治(まちづくり)の方針と基本的なルールを定める条例であり、「自治体の憲法」とも言われている」とされている。この観点からすると、今回の内容からはなかなか理解ができないと思う。また、現まちづくり推進条例を改正していくことに至る経緯等が策定検討委員会の議事録に記載されていない。
- 地域づくり協議会ができたから現条例を改定しよう、そして基本条例の個々の条文に対する議論に終始し4回の議事で案ができています。何か簡単に決めてよい条例なのか疑問に思う。
- 青少年健全育成委員の記載があるが、地区によっては選出していないところもあると思う。例示とするなら、どの地区にもある委員等が良いと考える。
- 人材確保と育成について、3つの事例の中にあるボランティア人材バンクは、地域づくり協議会によっては存在していないところもある。資格や特技を持っている人がいても地域で活かされる機会が少なく、また中学生地域リーダー養成講座等も企画・要請しても参加者がなく、地域の学校等の理解も必要だと思う。理想よりもどうすれば目的を果たせるか解説があるといい。
- 現状の地域活動において、高齢化や新規編入者(外国人含む)によって、昔ながらの共同で何かを行うことが大変難しくなっている。この解説書では協働で地域活動を積極的に行うことを推奨しているように思うが、絵に描いた餅にならないように、市の方で公共的にはここまでと示した上で、市民との対話が必要だと思う。
- 全体を通して、市民一人ひとりが主体的にまちづくりに参加することを目的としていると考えるが、市側の「こうしたい」という気持ちが強く出ているようにも思う。
- なぜ地域のために活動する人、地域活動に参加する人が減ってきているのか、自治会活動が負担だと感じる人が増えているのか、今自治会に関わっている世代だけでなく、自治会活動に関わっていく世代の考え方をもう少し検討した上で、文章等を考慮した方がいいと思う。現役世代でも関わることでできる組織、地域づくりにしていく必要があると考える。